

1. 略歴

1980.04	東京大学教養学部理科 I 類、入学
1982.04	同学部教養学科第一文化人類学学科、進学
1984.03	同学科、卒業
1984.04	東京大学大学院社会学研究科修士課程文化人類学専攻、入学
1986.03	同修士課程、修了
1986.04	同研究科文化人類学専攻博士課程、進学
1988.04	社会学研究科より総合文化研究科へ移管
1990.08	東京大学大学院総合文化研究科博士課程文化人類学専攻、中途退学
1995.11	東京大学大学院総合文化研究科、博士号（学術）取得
1994.04 - 1997.03	東京大学教養学部専任講師
1996.04	大学院総合文化研究科超域文化科学専攻専任講師に配置換え
1997.04 - 2004.09	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻助教授
2004.10 -	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻助教授
2005.04 - 2009.03	国立民族学博物館文化動態研究部門客員研究員
2009.04 -	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻准教授
2014.09 -	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻教授

2. 主な研究活動

多様な状況における文書・読み書き、その人間・社会との関係の研究

a 専門分野 b 研究課題

文化資源学（文書文化論）

主に発展途上国を念頭に置きつつ、広く文書・読み書きと人間・社会の関係について研究している。また、調査研究方法の検討、改善にも強い関心を持っている。様々なフィールド調査で得られるデータや知見を、言語能力、数的能力、道具使用等に関する認知科学や、文書をはじめとする認知的人工物（cognitive artifacts）の変化に関する歴史学的研究と有機的に接合することを目指して、隣接諸分野の研究者との共同研究にも積極的に取り組んでいる。

c 概要と自己評価

2009～2011 年度に引き続き、以下の 3 つの課題を意識しつつ、相互に関連しあう複数の研究を並行して進めた。

- ・文化資源学としての文書文化の考察
- ・デジタル技術と文書文化の関係の考察
- ・文書・読み書きに関する多様な領域の専門家との共同作業の推進

（1）2006 年度より 2011 年度まで連携研究者として参加した科研費プロジェクト「地図史料学の構築」、「地図史料学の構築」の新展開（研究代表者：杉本史子 史料編纂所教授）における絵図調査、東京芸術大学における国絵図復元研究への参加にもとづき、日本語論文 1 本（『紙とデジタルの間で ― 人文学の物質的な側面と知的分業について』、『人文知のフロンティア 3 境界と交流』）、英語論文 1 本（“Reconstructing Provincial Maps” in *Cartographic Japan: A History in Maps*）を執筆した。

（2）科研費プロジェクト「近代化模索期の『国史』編纂と地図作成」（研究代表者：杉本史子 史料編纂所教授、2012/04～2014/03）に連携研究者として参加した調査結果を東京大学史料編纂所研究成果報告に執筆した（『陸から考える近代の海と読み書き』、『近代移行期歴史地理把握のタイムカプセル「赤門書庫旧蔵地図」の研究』）。

（3）文化資源学の展開をデジタル技術を援用しながら分析する試み「文化資源学の射程」プロジェクトの研究結果を共同研究者、鈴木親彦と共著で『文化資源学』13 に投稿し（「文化資源学の射程―大学院教育プログラムへの人文情報学的アプローチ」）、さらに、可視化情報学シンポジウム 2014、Japanese Association for Digital Humanities Conference 2014 で報告した。現在、これまでの成果を学術誌に投稿し、査読結果を待っている段階である。

（4）東京大学大学院情報学環・佐倉統研究室／オムロン・ヒューマンルネッサンス研究所（HRI）共同研究「人と機械の未来を考える研究会」（研究代表者：佐倉統 東京大学大学院情報学環教授、2011.11）の研究成果を執筆した（『デジタル・ネットワーク化する世界と読み書き―開発研究からの考察』『人と「機械」をつなぐデザイン』）。

(5) 2014.04 より国際協力機構 (JICA) 中米・カリブ地域生活改善広域アドバイザーとしてコスタリカ共和国における生活改善プロジェクト情報システム構築に関する現地調査、協力を行った。また、生活改善アプローチに関する論文を投稿し、現在、査読結果を踏まえて修正中である。

(6) 文化資源学会「文化資源学の展望プロジェクト」「文化資源学を支えるテクノロジー」分科会の幹事として、様々な領域の専門家のもとを訪れ研究会を行い、その成果を発信するためのホームページを運営した。また、その成果の一部を分科会共同運営者、鈴木親彦とともに「可視化情報学シンポジウム 2015」や神田明神で報告した。

以上のように、引き続き歴史学、情報学、文化財保存科学、国際協力など多様な分野の専門家との共同作業を積極的に進め、成果の一部を公表することができた。これらの活動を通じて様々な領域でそれぞれの研究の進展があることを確認できたが、特にデジタル技術の進展は目覚ましく、それらとの連携は重大な課題となった。今後も、引き続き、学際性、社会連携、情報技術の積極的活用を重視した研究を進めていく。

d 主要業績

(1) 著書

共著、中村雄祐、『人文知 3 境界と交流』、東京大学出版会、2014.9

共著、中村雄祐、『人と「機械」をつなぐデザイン』、東京大学出版会、2015.2

共著、Kären Wigen, Sugimoto Fumiko, and Cary Karacas (eds.), 『Cartographic Japan - A History in Maps』、The University of Chicago Press、2016.3

(2) 論文

鈴木親彦・中村雄祐、「文化資源学の射程—大学院教育プログラムへの人文情報学的アプローチ」、『文化資源学』、13、91-101 頁、2015.6

(3) 学会発表

国内、鈴木親彦・中村雄祐・増田勝也、「修士論文とシラバスを対象とした人文学・社会科学の学際領域の可視化」、可視化情報学シンポジウム 2014、工学院大学新宿キャンパス、2014.7.21

国際、Yusuke Nakamura* Hideki Mima, Katsuya Masuda, Chikahiko Suzuki、「Scope of Cultural Resources Studies: Text-Mining of a Newly Created Interdisciplinary Graduate Program with MIMA Search」、Japanese Association for Digital Humanities Conference 2014、筑波大学、2014.9.21

国内、鈴木親彦・中村雄祐、「3D プリンティングによる「つくりもの」とテキストマイニングを活用した神田祭附け祭復元プロジェクトの可視化」、可視化情報学シンポジウム 2015、工学院大学新宿キャンパス、2015.7.21

(4) 研究報告書

中村雄祐、「近代移行期歴史地理把握のタイムカプセル「赤門書庫旧蔵地図」の研究」、東京大学史料編纂所研究成果報告 ;2014-3、2015

(5) 予稿・会議録

国内会議、鈴木親彦、中村雄祐、増田勝也、「修士論文とシラバスを対象とした人文学・社会科学の学際領域の可視化—「文化資源学の射程」研究プロジェクト報告」、可視化情報学シンポジウム 2014、工学院大学新宿キャンパス、2014.7.21
『可視化情報学シンポジウム 2014 講演論文集』、2014.7

国際会議、Yusuke Nakamura, Hideki Mima, Katsuya Masuda, Chikahiko Suzuki、「Scope of Cultural Resources Studies - Text-Mining of a Newly Created Interdisciplinary Graduate Program with MIMA Search」、Japanese Association for Digital Humanities Conference 2014、University of Tsukuba、2014.9.21
『JADH Conference 2014 Abstracts』、p.19、2014.9

国内会議、鈴木親彦、中村雄祐、「3D プリンティングによる「つくりもの」とテキストマイニングを活用した神田祭附け祭復元プロジェクトの可視化」、可視化情報学シンポジウム 2015、工学院大学新宿キャンパス、2015.7.21
『可視化情報学シンポジウム 2015 講演論文集』、2015.7

(6) マスコミ

「修士論文とシラバスを対象とした人文学・社会科学の学際領域の可視化—「文化資源学の射程」研究プロジェクト報告」、Slideshare、2014.7.21

「Scope of Cultural Resources Studies Text-Mining of a Newly Created Interdisciplinary Graduate Program with MIMA Search」、Slideshare、2014.10.7

「神田祭附け祭に向けたつくりもの連続ワークショップ・キックオフ」、Slideshare、2014.12.26

「3D プリンティングによる「つくりもの」とテキストマイニングを活用した神田祭附け祭復元プロジェクトの可視化」、Slideshare、2015.7.21

「Cuatro Acciones Pilares de MV - Aprendizaje de las Entradas de AMAGRO en SIMEVI」、Slideshare、2016.3.10

「Compartir Imágenes y Palabras de MV - Sobre el Sistema de Información de Mejoramiento de Vida para la Validación de Mejoramiento de Vida」、Slideshare、2016.3.10

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、神田明神、「神田祭附祭プロジェクト 文化資源としての江戸祭礼」、2015.9

特別講演、コスタリカ共和国農業牧畜省普及総局、「Compartir Imágenes y Palabras de MV - Sobre el Sistema de Información de Mejoramiento de Vida para la Validación de Mejoramiento de Vida」、2016.3

(2) 学会

国内、文化資源学会、理事、2014.7～

国際、Japanese Association of Digital Humanities、学術雑誌編集委員、2014.10～

(3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

独立行政法人、国際協力機構、中米・カリブ地域生活改善広域アドバイザー、2014.4～